



〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



郡山健次郎司教の後任決まる 中野裕明被選司教



叙階式は10月8日(月) 13時から宝山ホールで

教皇フランシスコは、7月7日(土)ローマ時間正午(日本時間7日、午後7時)、郡山健次郎司教の後任として鹿児島教区司祭フランシスコ・ザビエル中野裕明神父(日本カトリック神学院院長)を選任したことを公式発表した。

昨年8月、75歳に達し規定通り、郡山健次郎司教から教皇に出された「引退願い」が受理され、この日の発表となった。

1951年4月15日に鹿児島市に生まれた中野裕明被選司教は、現在67歳。ザビエル教会で受洗し、長崎公教神学校、福岡サン・スルピス大神学院へと進んで司祭職を目指した。司祭に叙階されたのは、1978年4月2日、ザビエル教会において、今は亡き東條一浩神父と一緒にだつた。叙階後は司教館付きで広

報担当、約3年教区報編集長を務めた。その後、1981年からは鴨池教会助任司祭、同教会付属の聖母幼

稚園副園長として働く傍ら、連合青年会指導司祭として、若者の育成に力を注いだ。1984年から4年間、ローマ・ウルバノ大学へ留学、「教義学」を学んで帰国。その後、玉里教会主任司祭、教区事務局局長、南九州小神学院院長、聖心教会主任司祭などを歴任、2011年8月から日本カトリック神学院で養成者を務め、2017年の10月から同神学院院長の任命を受けていた。

今年も夏期集中講座開講

テーマは「祈りを中心に抱く山上の説教」

鹿児島教区が主催する夏期集中講座、この講座は「信仰の基本的内容を種々

の角度から学ぶことを通じて信仰の基礎を確認するとともに、私たちに尋ねる人

鹿児島教区主催

第27回夏期集中講座

「祈りを中心に抱く山上の説教」

講師：竹山 昭神父(ザビエル教会主任司祭)

期日：8月20日(月)～24日(金)

時間：昼の部10時～11時30分

夜の部19時～20時30分

場所：鹿児島カテドラル1階ホール

受講料：一人500円(受講回数に関係なし)

申込み：①できるだけグループ毎にまとめて、氏名と電話番号を記入のこと

②8月12日までに郵送かファックスで

〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 教区本部

「夏期集中講座」係

TEL.099 (226) 5100/FAX.099 (225) 0440

8月6日～15日は カトリック平和旬間

1981年、教皇ヨハネ・パウロ二世は広島で、「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」と述べられました。戦争を振り返り、平和を思うとき、平和は単なる願望ではなく、具体的な行動でなければなりません。そこで日本のカトリック教会は、その翌年、もっとも

身近で忘れることのできない、広島や長崎の事実を思い起こすのに適した8月6日から15日までの10日間を「日本カトリック平和旬間」と決めました。「平和旬間」に広島教区と長崎教区では、全国から司教をはじめとして多くの信者が集まり、「平和祈願ミサ」がさまざまな形で、各教区でも、平和祈願ミサや平和行進、平和を主題とした映画会、講演会、研修会、平和を求める署名などが行われます。

に私たちの信じていることを告げることができるよう「と始められたもの。」「すでに26年が過ぎた。今年、山上の説教をその基本構造と特徴の理解を求めて読んでみたい」(竹山昭神父談)

参加者の便宜を考えて今年も昼と夜の部を設けてある。日によってあがるコースが違って内容も同じ、都合のよい方を受講し欲しい。

「報告・サンタマリア神父」

中野裕明被選司教の叙階式は10月8日(月)13時から宝山ホール(県文化センター)で行われる予定で、鹿児島市内の司祭たちが責任者となって司教叙階式準備委員会を組織し、その準備にあたることとした。

神父さんたちが学習 三教区司祭合同黙想会

6月11日(月)から15日(金)まで霧島国際ホテルで三教区司祭(大分、那覇、鹿児島)合同黙想会が行われた。講師は山根克則神父(東京大司教区司祭)。

この黙想のテーマは「主イエスの約束」あなたがたに命じておいたことをすべからず守るよう教えなさい。私は世の終わりにまでいつもあなたがたと共にいる」(マタイ28・20)。山根神父は次のように語った。一人のキリスト者として、人生の途上において「いつ、どこで、どのように主イエスとの接点を持つたのか」を振り返り、イエ

中野裕明被選司教略歴
1951年4月15日、鹿児島市に生まれる。1978年4月2日、司祭叙階。1978年4月、司教館・広報担当。1981年4月、鴨池教会助任司祭及び同教会付属幼稚園副園長。1982年、連合青年会指導司祭。1984年4月、ローマ・ウルバノ大学留学。1988年7月、玉里教会主任司祭。1990年2月、教区事務局長。1990年4月、広報担当司祭。1990年5月、鹿児島カトリック婦人連合会顧問司祭。1994年2月、南九州小神学院院長。1996年4月、聖心教会主任司祭。2006年4月、教区書記・会計部長。2009年4月、ザビエル教会主任司祭・事務局長。2010年4月、教区本部付き。2011年4月、志布志教会主任司祭及び同幼稚園園長。2011年8月、日本カトリック神学院神学生養成者。2013年4月、同神学院副院長。2017年10月、同神学院院長。

スの言葉を信じるとすれば、キリストは私と共にいるというのには確か。しかし、キリストの姿は見えない。ならどうすればその存在を感じる事ができるのか、どういう方法でならイエスに会うことができるのかを考えなければならぬ。まずは私に起こる出来事が偶然ではなく、神の摂理だと考えれば、私がイエスに導かれていることが分かる。そして自分のそばにいて大切な人々の指導の働きや聖書のみことばの理解のおかげで、またはキリストの特別な恵みによってキリストの神秘を経験することになる。では、イエスはどのようにして私たちと一緒にいたいのだろうか。これについてナジヤンスの聖グレゴリオは「人は何者だろう。人間という私はなんと不思議な神秘だろう。私は小さな者であると同時に、大きな者である。地上に偉大な者であると同時に天に属する者である。私はキリストと共に葬られ、キリストと共に復活し、神の子となり、さらには神そのものになる。神は私たちのために人間となつてこのことを示してくれた」と言っている。(報告・サンタマリア神父)

永年の働きに感謝 教区主催で記念ミサ

永山神父 アッシャー神父が金祝(司祭叙階50年)

泉神父 栃尾神父が銀祝(司祭叙階25年)

M・アッシャー神父

- 1936年 12月 14日 ドイツに生まれる
- 1954年 神学校入学
- 1959年 9月 3日 初誓願
- 1963年 9月 7日 来日(日本で働けるという理由からレデンプトール会を選択していた)
- 1968年 4月 28日 司祭叙階(レデンプトール会本部)
- 1968年 11月 1日 川内教会助任司祭として着任。宮之城教会担当
- 1969年 10月 10日 大口教会へ(宮之城教会担当)
- 1972年 4月 亀津教会主任
- 1981年 3月 長崎教区愛宕町教会へ
- 1986年 7月 谷山教会主任司祭
- 1987年 4月 出水教会主任司祭
- 1993年 3月 人事異動で教区外へ
- 1999年 4月 入来教会主任司祭
- 2011年 4月 大口教会主任



ミサをささげる永山神父、泉神父、栃尾神父

この日のミサの主司式は司祭3人が加わり、荘厳なミサとなった。福音朗読後に説教したの各地からこの記念のミサに駆けつけてきた信徒たちに謝辞を述べた上で、「キリスト者の生活は恵みの歴史。しかし希望を持ち、永遠の命に向かうには多くの困難があり、一人では乗り越えられない。祈りのうちに神と向かい合い、イエスを自分の喜び、救いとしなければならぬ。たとえそのように生きることもできない人間は間違いを犯す。だからキリスト

午後2時から始められたこの日のミサの主司式は司祭3人が加わり、荘厳なミサとなった。福音朗読後に説教したの各地からこの記念のミサに駆けつけてきた信徒たちに謝辞を述べた上で、「キリスト者の生活は恵みの歴史。しかし希望を持ち、永遠の命に向かうには多くの困難があり、一人では乗り越えられない。祈りのうちに神と向かい合い、イエスを自分の喜び、救いとしなければならぬ。たとえそのように生きることもできない人間は間違いを犯す。だからキリスト

7月16日(月)午後、ザビエル教会で司祭叙階の節目に感謝するミサが教区主催でささげられた。今年、司祭職の節目を迎えたのは永山幸弘神父(司教館)、M・アッシャー神父(レデンプトール会・大口教会)、泉浩二神父(鴨池教会)、栃尾泰英神父(高松教区所属・種子島教会)の4人。永山幸弘神父とアッシャー神父は、司祭叙階50周年の金祝、泉浩二神父と栃尾泰英神父は司祭叙階25周年の銀祝だった。残念ながらアッシャー神父は体調を崩し、この日のミサで共に祝うことはできなかったが、集まった200人余りの信者たちは永年、宣教司牧に奔走し、司祭生活の節目を迎えた司祭たちに心から感謝し、これからの活躍を願う祈りをささげた。

永山幸弘神父

(鹿児島教区の基礎を作った七田和二郎神父や七田八十吉神父は叔父にあたる。福岡サン・スルピス大神学院在学中に鹿児島教区に転籍)

- 1941年 12月 26日 五島列島に生まれる
- 1968年 3月 20日 ザビエル教会で叙階
- 1968年 4月 ザビエル教会助任
- 1971年 8月 教会法を学ぶためにローマに留学
- 1977年 6月 ザビエル教会助任及び教区書記
- 1978年 4月 紫原教会主任
- 1982年 4月 玉里教会主任
- 1988年 4月 ザビエル教会主任
- 2006年 4月 溝辺教会主任
- 2011年 4月 聖心教会主任
- 2017年 10月 静養

その他

1984年5月から1989年4月まで「新教会法典」の解説を教区報に執筆。
1987年10月からザビエル市民講座を開

講。1994年ザビエル教会再建推進委員会の委員。(神父はザビエル教会がカテドラルであることもそうだが、小教区としてのザビエル教会を担当する主任司祭として、建設資金を少しでも多く小教区で負担するため、信徒たちへ協力を訴え、実現に導いた。新カテドラル完成後は、市民に開かれた教会を目指し、宗教音楽のコンサートや聖書講座、生き方を考える集いなど開き21世紀に向かう教会の姿を確立するために精力的に活動した。)

永年、司祭評議会のメンバー。鹿児島カトリック連合壮年会顧問司祭を担当。玉里教会など財政の正常化を実現。SBU運動の事務局長。前教区長の故・糸永司教の熱く、強い思い、計画を実現に向けてリーダーシップを発揮した。



ト者の歴史はゆるしの歴史でもある。司祭も信徒も互いにゆるし合っている。この日のミサで信徒も司祭も共に神への賛美をささげようとメッセージを送った。説教後の共同祈願では、金祝、銀祝の司祭たちの今後の活躍が願われたほか、教の後任・中野裕明被選司

教と共に教区が一致して進むことができるよう祈りがささげられた。ミサの終わりにには祝典があり、司祭団を代表してテイエン神父(聖心教会)が、信徒を代表して福田皓佑さん(ザビエル教会)が、祝辞を述べた。その後、栃尾神父、泉神父、永山神父がそれぞれ挨拶をすませると、子供たちからそれぞれに花束が贈られ、感謝のミサを終えた。ミサ後は、会場を一階ホールに移し、祝賀の茶話会があった。9月号でテイエン神父、福田皓佑さんの挨拶を紹介。

泉 浩二神父

1966年7月1日、名瀬市大熊に生まれる。泉紫朗・京子さんの四男。地元の小学校卒業後、長崎公教神学校、福岡サン・スルピス大神学院に進学し司祭職を目指した。1992年3月22日、大島宣教開始百年記念ミサで助祭に叙階。1993年3月25日、司祭に叙階。司祭叙階後は聖心教会助任。1995年4月、司教館付き(司教秘書・研修の家責任担当)。1996年、書記長補佐。1999年11月、知名瀬教会主任。2000年4月、南九州小神学院院長。2002年9月、垂水教会管理者(南九州小神学院院長兼務)。2003年4月、鴨池教会主任及び同附属聖母幼稚園園長。2006年3月、加世田教会主任、加世田及び枕崎幼稚園園長。2012年4月、鴨池教会主任、同附属聖母幼稚園及び加世田幼稚園園長。2014年4月、広報部長。2014年9月、事務局長及び会計部長。2016年4月、司教総代理(広報部長、会計部長兼任)



栃尾泰英神父

1953年10月15日に三重県熊野市に生まれた。1977年に豊島教会(東京)で受洗し、1987年にローマ・グレゴリアン大学に入学した。助祭に叙階されたのは1992年10月、場所はラテラノ大聖堂だった。高松教区司祭として司祭に叙階されたのは1993年7月4日。その後司教館付き、江ノ口教会、桜町教会、新居浜教会で司牧し、2009年から鹿児島に派遣されている。鹿児島教区では瀬留教会、大熊教会で司牧し、現在は種子島教会主任として働いている。

曹洞宗を信仰する家に生まれた栃尾神父は、20歳過ぎてから上京し、そこでコロンバン会の司祭たちとの出会いが洗礼へのきっかけとなった。受洗し、その後、あるシスターからの「あなたの人生をキリストに賭けてみないか」という言葉に触発され、自分の歩む道を決めた。初心を忘れず、「つまらない神父にはならないで欲しい」という願いに応えたいという。



新園舎の落成を終えて カトリック国分幼稚園



皆様、皆さん、ありがとうございました。5月26日(土)、多くの方々を迎えて、幼稚園新園舎の落成式を挙行いたしました。カトリック国分幼稚園園舎建替えの話を始めてから3年間、ようやく完成させることができました。今回の事業は、設計及び施工が国分教会と同じ方々だったこともあり、細かなところまでコミュニケーションが取れて、思いどおりの園舎を建設することができました。これもひとえに設計・施工・各業者、市役所、商工会、保護者、教会、通り会、近隣の多くの

方々の温かい思いやりと協力の賜物だと心から感謝しています。神様から授かった新しい園舎で、未来を担う掛け替えのない子どもたちを育てて行くことで、皆様や皆さんへの恩返しとして行きたいと思えます。また、新しい幼稚園と教会が、多くの人が立ち寄れる

ような、霧島市の街中のシンボルとなるような場所にして行きたいと思っております。園舎正面の聖家族の御像と入口の薔薇の聖母がいつも皆さんを待っています。【写真は幼稚園と隣に立つ教会】(報告・認定こども園カトリック国分幼稚園園長 桃蘭 智)

分かち合いのためカフェ開店 第2日曜午後 玉里教会

玉里教会(主任司祭小隈憲士神父)では、「小教区の信徒同士が互いに信仰を分かち合う場となれば幸い」と7月8日(日)午後3時から5時まで、カフェ「ともよろ」を開店した。このカフェは、「信仰の分

かち合いがなかなかうまくできない現状を打開しよう」という小さな試みの一つで、月一回、第二日曜日に開かれる。主任司祭の小隈神父は「自分の思いを安心して話せる場があれば、信仰共同体全体の益になるのではないかと期待を寄せている。そして「誰かが語る時には、静かに最後まで、口を挟まないで聴くこと。決して批判したり、他言したりすることなく、語り手の尊厳を守ることがこのカフェでの約束事」と強調した。

司教執務室便り

今後のミッションを考える

「フランススコ教皇はあなたの引退願いを受理されました。後任が決まるまでは従来通り勤めてください。」

そんな返事が届いてから1か月たった頃、駐日大使館から届いた親展の印が押された手紙に歓喜した。はやる心を抑えて急いで封を切った。案の定、待ちに待った後任決定の通知だった。

直後のブイジュ祭、司教総会、徳之島、M E鹿兒島集會、そして大阪での叙階式と、引退決定の余韻に浸るゆとりも無く怒涛の一週間が過ぎた。一息ついたところで待ち受けているのは旧司教館への引越だ。市内だけに時間をみては少しずつ運び込めは済むことなので気は楽だ。問題は、12年間にたまった本や衣類、贈答品の整理。これまで、たくさんのお贈り物や季節の衣類は、大阪の旅路の里やふるさとの家へ送っていたので、かなり身軽になっているつもりだが、この際、さらに身軽さを増したい。

1997年故郷奄美への転勤は、2500cc



のバイクに乗せた軽トラック一台で済ました。今回は、その記録を更新したいと思っている。美島神父さんの遺産マツダのデミオ一台ではさすがに無理。何回か往復することになるが、理想はあくまでデミオ一台。いざれにしても、丸めた頭のように、パツパツ分するところで「身一つ」という美学の完成度を高めたいとは思っている。ところで、引退と聞いていろいろな疑問が交錯しているのが分かった。

「司教職も辞めるのですか」「どこに住みますか」

一番多かったのは「何をやるのか」だった。「田舎でのんびり百姓でもやります」と言いたいところだが、ボクがキリストから頂いた司教職は永遠の司教職。したがって、司教としての奉仕職を行使する任は解かれても、司教職の充満と言われる司教というステータスは永遠。だから、引退したからといって、ただの郡山さんに戻るわけではない。で、郡山さんと呼んでもいいのだが、これまで通り、「司教さん」でいい。実際は、自分、吉野幼稚園の園長先生として子供の園で余生を送ることになる。引き続きお祈りください。

短歌
鴨池教会 前田儀子
野牡丹の深紫のひと枝を妹に手向くコップに挿してしるじろと雲は球体積める午後ブルーベリーのジャムを煮てをり

ザビエル上陸記念祭ミサ
8月11日(土) 9時
鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂

+KABAYAN SEKSYON+
Isang Pagpapahalaga sa Tapat na Paglilingkod

Binabanggit ng pastoral na pangaral ng CBCP para sa taon 2018 ang "maliliwanag na mga ilaw" sa ating local na Simbahan, at nagbibigay ito ng ilang kongkretong halimbawa. "Matapat na pinagdiriwang ng ating mga pari ang mga sakramento araw-araw sa mga maabalang lugar sa mga lungsod at sa mga malalayo at sa mga barangay na nasa ilang. Nangangasiwa an gating mga relihiyoso at relihiyosa sa mga institusyon ng Simbahan, nagtuturo sila ng katekismo at naglilingkod sa mga parokya. Nagbibigay saya sila sa mga bahay-ampunan, pagamutan, at bilangguan. Nag-umpisa na rin ang ilan na tumulong sa pagbabago ng mga nalulong sa droga."

"Bagamat hindi nakabihis pangrelihiyoso, hindi naman nagkukulang sa kanilang katapatan silang mga kasapi ng mga samahang layko na nagpapalaganap sa Kaharian ng Diyos sa kani-kanilang mapagkumbabang paraan. Tunay nila tayong pinupukaw at pinalalakas".

Binabanggit din ng CBCP ang "pari ng Marawi, si Padre Teresito 'Chito' Sukanob, na halos mamatay dahil sa kanyang pag-aalaga sa kanyang mga parokyanong naipit sa digmaan.

Tandaan natin na tinatawag ng Ikalawang Konseho Batikano ang lahat patungo sa kabanalan sa kani-kanilang bokasyon. "Tuloy-tuloy na pinakikita, at dapat lamang na makita, ang kabanalan ng Simbahan sa mga bunga ng biyaya na dulot ng Espiritu (Lumen Gentium, b.39).

Tunay ngang "marami ang uri at gampanin ng buhay, ngunit iisa lamang ang kabanalan-kabanalang nililalang ng lahat nilang pinakikilos ng Espiritu ng Diyos (LG b. 41).

Katekesis para sa Taon ng mga Pari at Relihiyoso (Fr.Dino)

短信

▼ブイジュ祭
7月8日(日)午後、瀬留小教区では同地の宣教に奔走し、瀬留の土となったブイジュ神父を記念し、その偉業をたたえる「ブイジュ祭」を開催し、郡山司教と共に墓参しミサをささげた。

会と催し

1日(水)	アルフォンソ祭
3日(金)	ルーシン神父命日(1994年)
4日(土)	李秉徳神父命日(聖ビアンネ)
5日(日)	年間第18主日
6日(月)	主の変容
7日(火)	▼日本カトリック平和旬間(15日)
7日(火)	小平卓保神父命日(2005年)
8日(水)	田原章神父命日(聖ドミニコ)
8日(水)	▼宋診旭神父命日(聖ドミニコ)
9日(木)	ザビエル上陸祭実行委員会・教区本部・19時
10日(金)	聖ラウレンチオ助祭殉教者
11日(土)	ザビエル上陸記念祭・カテドラル・9時
12日(日)	年間第19主日
13日(月)	教区本部事務所休み・15日
15日(水)	▼平和の鐘を鳴らそう・カテドラル・正午(集合11時)
19日(日)	年間第20主日
21日(火)	教区巡礼委員会・教区本部・19時
24日(金)	聖バルトロマイ使徒
25日(土)	九州青年キャンプ・鹿兒島市・26日
26日(日)	年間第21主日
28日(火)	▼オリブの会・教区本部・14時
28日(火)	鈴木康由神父命日(聖アウグスティヌス)
28日(火)	山口重義神父命日(2016年)
30日(木)	▼オーバン神父命日(1988年)
30日(木)	ペルリーニ神父命日(2008年)

祈りの意向
世界の使徒会
世界共通
日本の教会
家庭は宝物
世界平和への責任

イエスさまの先駆者になろう

ザビエル教会での堅信式で郡山司教がメッセージ

「洗礼者聖ヨハネの誕生の祭日」に当たる6月24日(日)、ザビエル教会での午前9時からのミサの中で堅信式があり、21人が郡山司教から堅信の恵みを受けた。

この日、堅信の恵みに浴したののはザビエル教会所属信徒18人と紫原教会所属信徒2人、このほかラ・サール学園の生徒1人だった。福音朗読後に説教した郡

山司教は「堅信式は一つの節目であり、次へステージの始まり」と位置づけ、洗礼者聖ヨハネの働きを解説しながら、信者としての生き方を示した。

郡山司教は「洗礼者聖ヨハネはイエスさまのフォアランナー(露払い・先駆者)だった。露払い、後から来る身分の高い人が歩きやすくするのが役目。これらの役目は強い者に与え



④額に油を塗られる受堅者
⑤初めてのご聖体は司教さまから

ペトロとパウロの祭日 司祭団が集いミサ

聖ペトロとパウロの祭日の6月29日(金)、教区本部では定例司祭集会(コンベンツ)が開かれ、聖職者中心主義とも言われる教会の姿について話し合われたほか、ザビエル教会主聖堂でミサがささげられた。

この日集まってきたのは、28人の司祭と終身助祭5人。信徒たち約40人も参列し共に祈りをささげた。池上助祭のマイ福音書

の朗読後に説教した郡山司教は、異教徒の地と言われるフィリッポ・カイザリア地方でのイエスとペトロとのやりとりから、「教会はペトロの出した正解の上に立っている。異教徒の世界とはまさに現代社会のようなもの。そこで信仰宣言をすることに難しさもある。それに抗うにはイエスとの時間を大切にすることが必要。司祭も助祭も信徒も聖堂でイエスと語り合い、進むべき道を示しても「おおう」とメッセージを送った。

られるのではない。イザヤ書にもイスラエルのことが記されている。そこは一番小さな部族だった。小さく、弱いことで不安になる。しかしそんな時こそ、神が働いてくださる。自分弱さを謙虚に認めると神が力を現される。堅信を受ける皆さんも、誰かと比較するのではなく弱さを認め、イエスさまのフォアランナーとなっていこう」とメッセージを送った。

説教の後は、堅信の儀に移り、主任司祭竹山昭神父の呼び出しにこたえて祭壇前に進んだ受堅者たちは額に油を塗られ、堅信の恵みに浴した。またこの日は初聖体もあった。

ミサ後には会場を一階ホールに移して、堅信と初聖体を教会共同体の皆で祝った。

「わたしに向かつて『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るのではない。天におられるわたしの父のみ旨を行なう者だけが入るのである」とイエスさまは言っています。それはイエスさまが教えてくれた「いのち」を生きていることです。それを生きているわたしたちの「動機」は、責任でも、義務感でも、使命感でもありません。相手を大切に思う心が動機であり、神さまからいただいたいのちに、耳を澄まして生きていけば

講演会

巡礼委員会主催
「第二バチカン公会議が打ち出したもの」
講師：松田清四郎神父(亀有教会主任)
日時：9月23日(日)13時
場所：ザビエル教会1階ホール
※駐車場は利用できません。

鹿児島教区で働く聖職者による
セクハラ・パワハラで悩んだら
子どもと女性の人権相談室
TEL090(3418)2729
※相談内容の秘密は厳守されます。

康由神父の聖書教室(4)

イエス様にとどまる

ぶどうの木の譬えから



イエス様はご自分のことを「まことのぶどうの木」と言われました(ヨハネ15・1)。イエス様がぶどうの木であることは、聖歌にもあることからイメージしやすいことでしょう。しかし、大切なことは「まことの」という言葉です。この言葉は福音書の中ではルカで1回、ヨハネで9回使われていたことから、ヨハネに特徴的な言葉であると言えます。

では、この「まことの」という形容詞によって、い

イエス様は何を語ろうとなさったのでしょうか。そこで、旧約聖書を紐解くと、ぶどうの木、また、ぶどう園とは意外にもあまりよい譬として使われてはいません。

因みに、詩編では獣に食い荒らされ、実りをもたらさないものとして(詩編80・9・14)、イザヤの預言の中では、酸いぶどうを搾られるゆえに神様から見捨てられるものとして(イザヤ5・1・6)、そして、ダニエルの預言の中では神の怒りによって焼き尽くされるものとして描かれています(ダニエル19・10・12)。ということは、嘗てのぶどうの木はそのようなものであっても、イエス様は決してそのようなものではない、ということをお聞きください。

遠くから聞こえてくる潮騒に耳を傾けて。

私は今、生きている。

私の生きているこの島は、何と美しい島だろう。青く輝く海、岩に打ち寄せしぶきを上げて光る波、山羊の嘶き、小川のせせらぎ、畑に続く小道、萌え出づる山の緑、優しい三線の響き、照りつける太陽の光。

(中略)

だから、きつとわかるはずなんだ。戦争の無意味さを。本当の平和を。

(ヨハネ15・4)。ここで「つながら」と訳された言葉は、原語では「とどまる」という意味をもちます。

なぜ、イエス様はこの言葉を使われたのでしょうか。その答えとなるのが詩編の言葉です。そこには「あなたがわたしの右の手を取ってくださいるので、常にわたしは御もとにとどまることができぬ。」とあります(詩編73・23)。つまり、イエス様は既に私たちの手を取ってくださいしているのです。だから、私たちはイエス様がお命じになるように、イエス様に留まり続けることができるのです。

つまり、未来は、今なんだ。(途中まで)

いのちに耳を澄ましながら、ここに笑顔で神さまといっしょに歩いていきましよう!

(谷山教会 本村裕之)

お知らせ

▼社会問題の分かち合い(毎月第3土曜日) ※14時~16時(8月休み)

場所：教区本部

内容：原発・改憲についての情報交換、その他

▼アニメ映画上映「この世界の片隅に」

日時：8月15日(水)13時30分~16時(教区本部)

※自由参加・無料



KJJP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 8月号

よいのです。

次の詩は、2018年6月23日、沖縄県糸満市での沖縄全戦没者追悼式で浦添市立港川中学校3年、相良倫子(さがらりんこ)さんが朗読した平和の詩「生きる」の一部です。

「生きる」

私は、生きている。

マントルの熱を伝える大地を踏みしめ、心地よい湿気を孕んだ風を全身に受け、草の匂いを鼻孔に感じ、

遠くから聞こえてくる潮騒に耳を傾けて。

私は今、生きている。

私の生きているこの島は、何と美しい島だろう。青く輝く海、岩に打ち寄せしぶきを上げて光る波、山羊の嘶き、小川のせせらぎ、畑に続く小道、萌え出づる山の緑、優しい三線の響き、照りつける太陽の光。

(中略)

だから、きつとわかるはずなんだ。戦争の無意味さを。本当の平和を。

頭じゃなくて、その心で。

戦力という愚かな力を持つことで、得られる平和など、本当は無いです。

平和とは、あたり前に生きていること。

その命を精一杯輝かせて生きていることだということを。

私は、今を生きている。

みんなと一緒に。

そして、これからも生きていく。

一日一日を大切に。

平和を想って。平和を祈って。

なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。